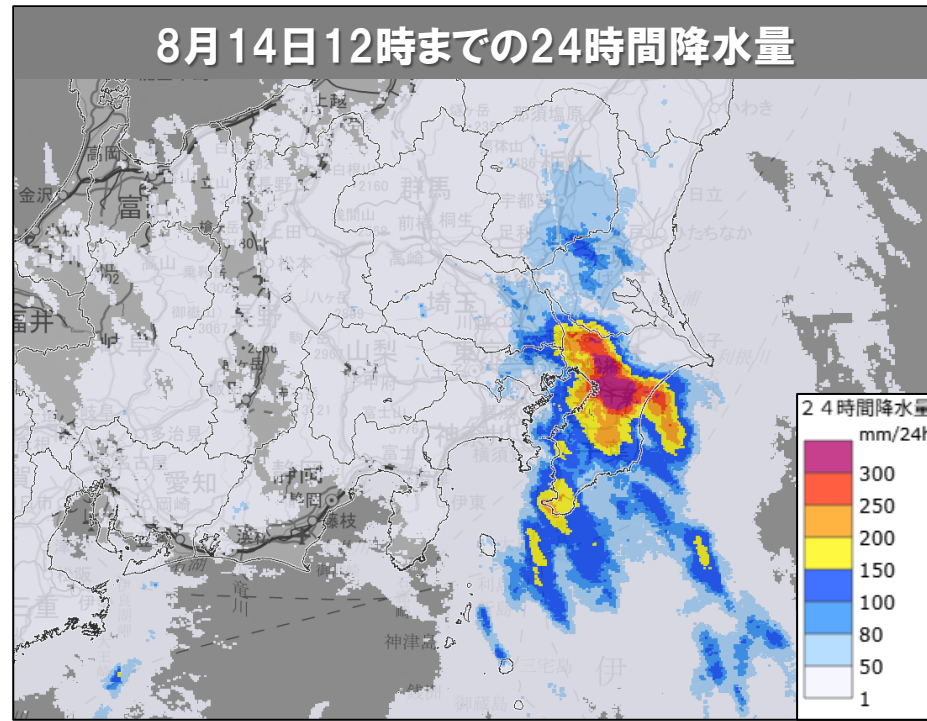


13日夕方から14日未明にかけて、千葉県で記録的な大雨となり、千葉では24時間降水量が8月の平均1ヶ月降水量の3倍以上に達した。この大雨により、河川の氾濫や内水氾濫が各地で発生し、死者・行方不明者計14名、住家被害計4,635棟(床上・床下浸水など)*に及ぶ甚大な被害が生じた。

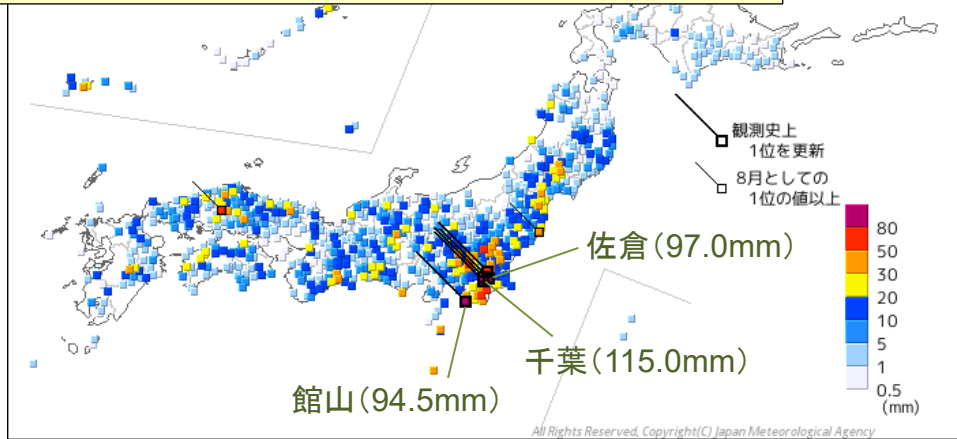
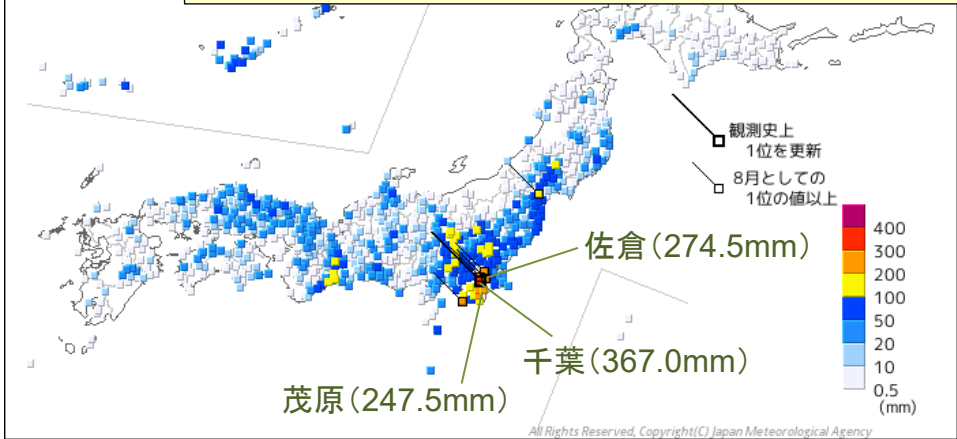
*消防庁災害対策本部「令和8年8月千葉豪雨による被害及び消防機関等の対応状況(第18報)」
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/20260813chibagouu18.pdf>



【雨】期間内の24時間降水量最大値
(8月13日00時～8月14日24時)

【雨】期間内の1時間降水量最大値
(8月13日00時～8月14日24時)

- 千葉県複数の地点で24時間降水量が200mmを超え、千葉では367ミリと観測史上1位を記録
- 1時間降水量も千葉で115mmに達するなど、千葉県複数の地点で観測史上1位を記録



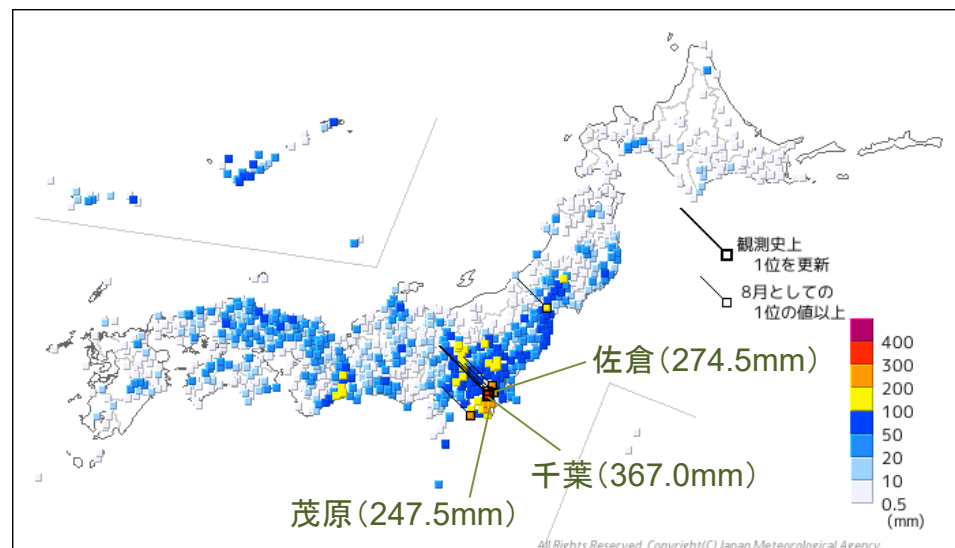
順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉（チバ）※1	367.0	2026/8/14 10:00
2	千葉県	佐倉市	佐倉（サクラ）※2	274.5	2026/8/14 16:40
3	千葉県	茂原市	茂原（モバラ）	247.5	2026/8/14 03:30
4	千葉県	市原市	牛久（ウシク）	233.0	2026/8/14 04:00
5	千葉県	我孫子市	我孫子（アビコ）※2	213.0	2026/8/14 10:20
6	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜（オオタキ）	211.5	2026/8/14 03:50
7	千葉県	館山市	館山（タテヤマ）※2	211.0	2026/8/14 09:20
8	千葉県	船橋市	船橋（フナバシ）※2	210.0	2026/8/14 06:40
9	埼玉県	大里郡寄居町	寄居（ヨリイ）	199.5	2026/8/13 00:10
10	群馬県	高崎市	榛名山（ハルナサン）	163.5	2026/8/13 01:30

順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉（チバ）※1	115.0	2026/8/13 18:48
2	千葉県	佐倉市	佐倉（サクラ）※1	97.0	2026/8/13 19:31
3	千葉県	館山市	館山（タテヤマ）※1	94.5	2026/8/13 21:53
4	千葉県	船橋市	船橋（フナバシ）※1	62.0	2026/8/13 18:43
5	千葉県	我孫子市	我孫子（アビコ）※1	61.0	2026/8/13 14:30
6	千葉県	茂原市	茂原（モバラ）	57.0	2026/8/13 21:34
7	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜（オオタキ）	56.5	2026/8/13 21:24
8	埼玉県	さいたま市桜区	さいたま（サイタマ）	53.0	2026/8/13 15:44
9	栃木県	小山市	小山（オヤマ）	51.0	2026/8/13 12:14
10	広島県	三次市	三次（ミヨシ）※2	50.5	2026/8/13 17:10

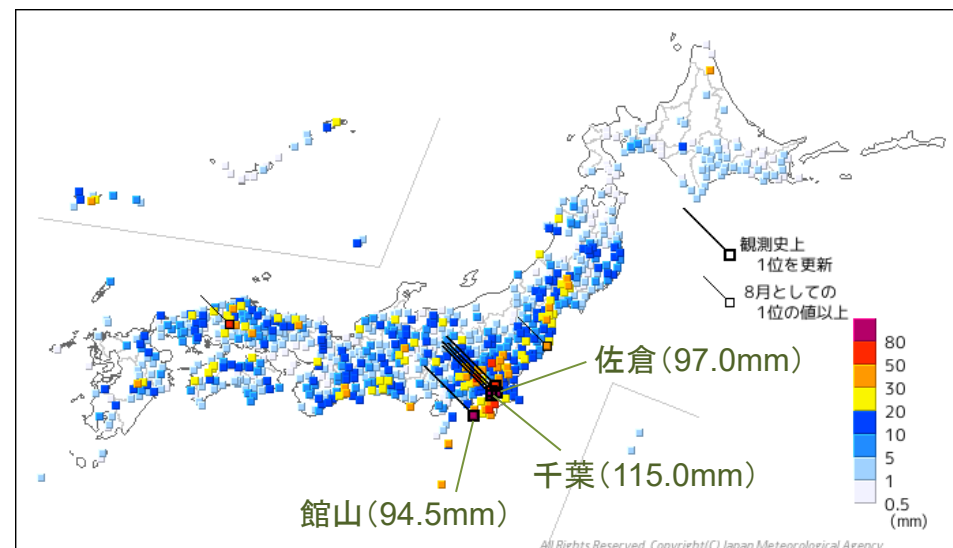
※1: 観測史上1位の値を更新した地点を示す。 ※2: これまでの8月の1位の値を更新した地点を示す。

雨の状況

【雨】期間内の24時間降水量最大値
(8月13日00時～8月14日24時)

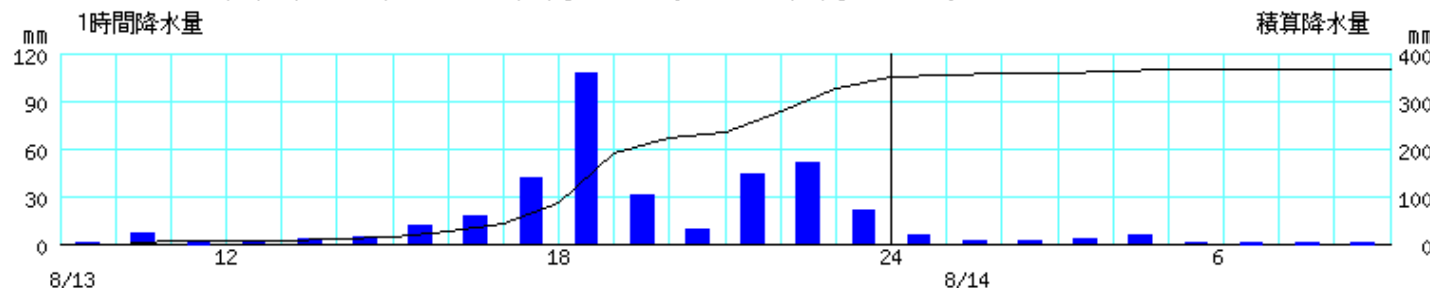


【雨】期間内の1時間降水量最大値
(8月13日00時～8月14日24時)



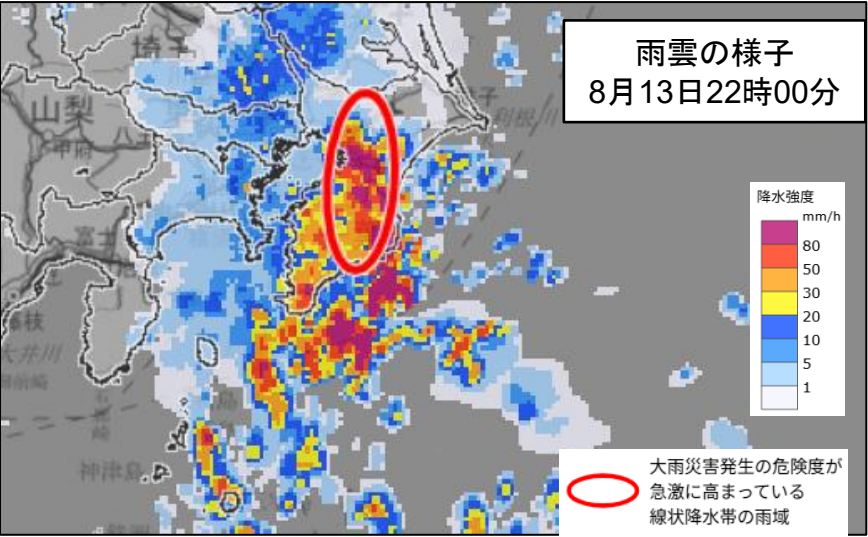
千葉の1時間降水量の時系列

千葉 (45212) 2026年8月13日9時～2026年8月14日9時

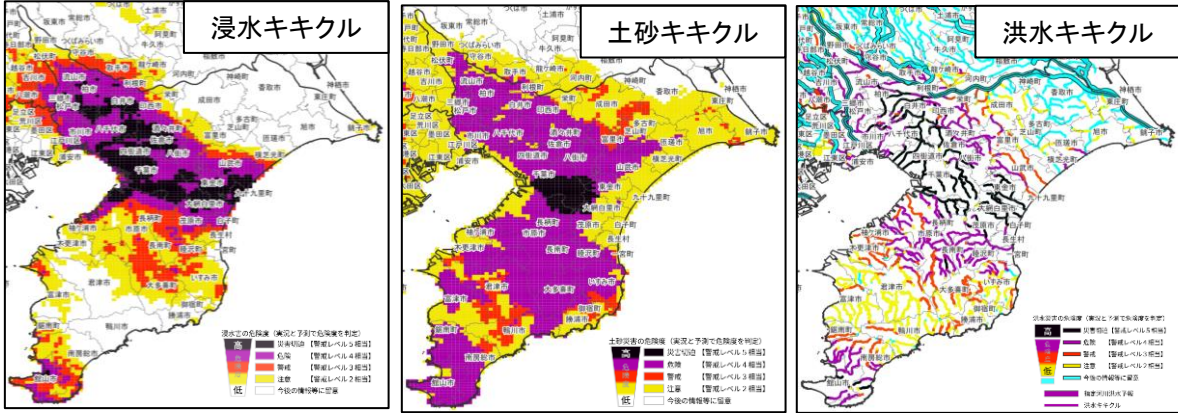


今回の豪雨は半日にも満たない比較的短時間の現象であり、短時間強雨が特徴

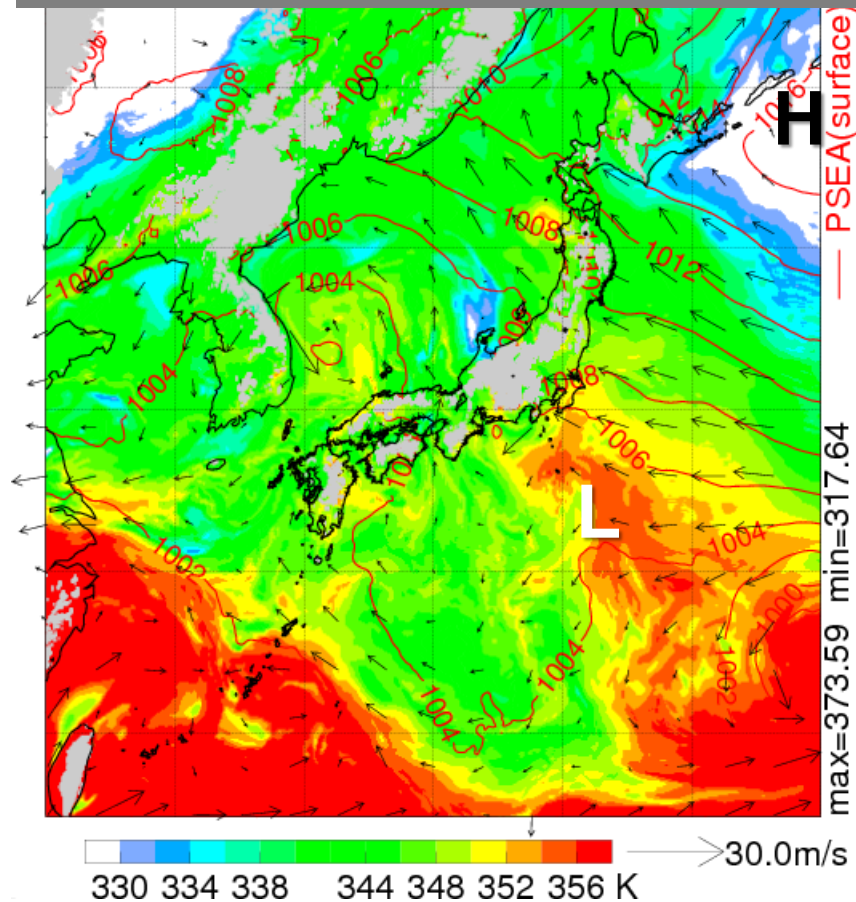
千葉県では13日夕方以降、線状降水帯が発生し、気象防災速報(記録的短時間大雨)を相次いで発表した。この記録的な大雨により、千葉県には13日19時30分から14日05時15分にかけて、レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報を広い範囲に発表した。



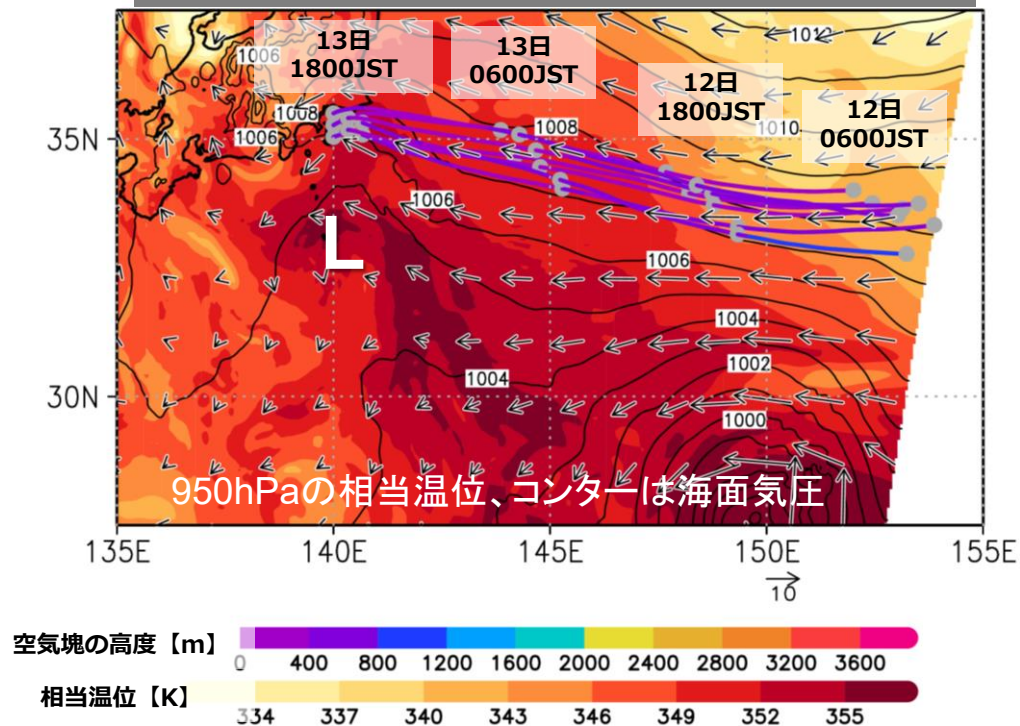
最大危険度 8月13日06時～14日06時



950hPa相当温位と風 コンターは海面気圧



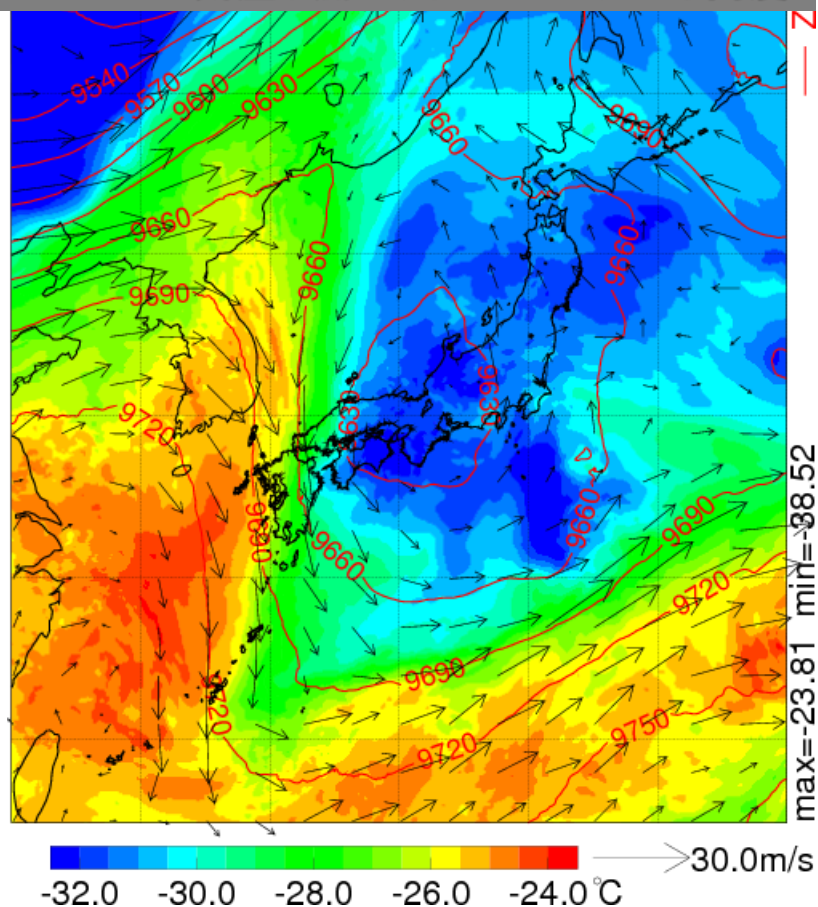
豪雨付近を起点とした後方流跡線解析



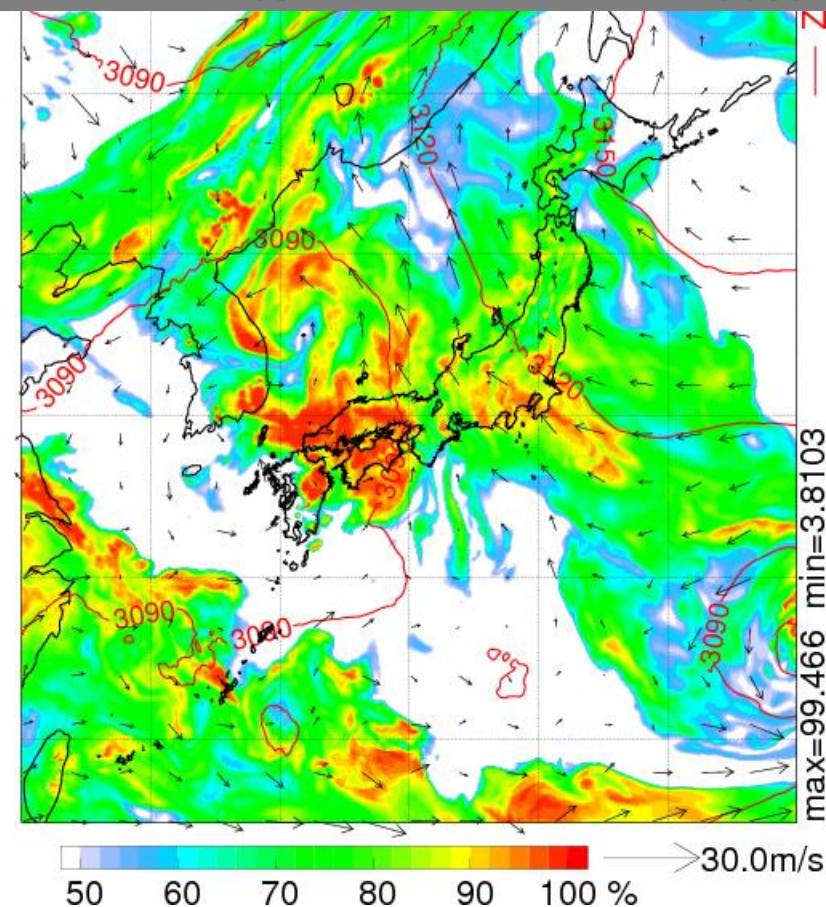
粒子は13日18時に高度500mに配置し、メソ解析の3時間値を5分間隔に内挿したデータを用いて4次のルンゲクッタ法で計算

- 千島の東に中心を持つ高気圧の縁辺に沿って、暖湿気が東海上から関東地方へ流入
- 房総半島の南に小低気圧があり、関東付近への暖湿気の流入を強化

300hPaの気温と風ベクトル コンターは高度



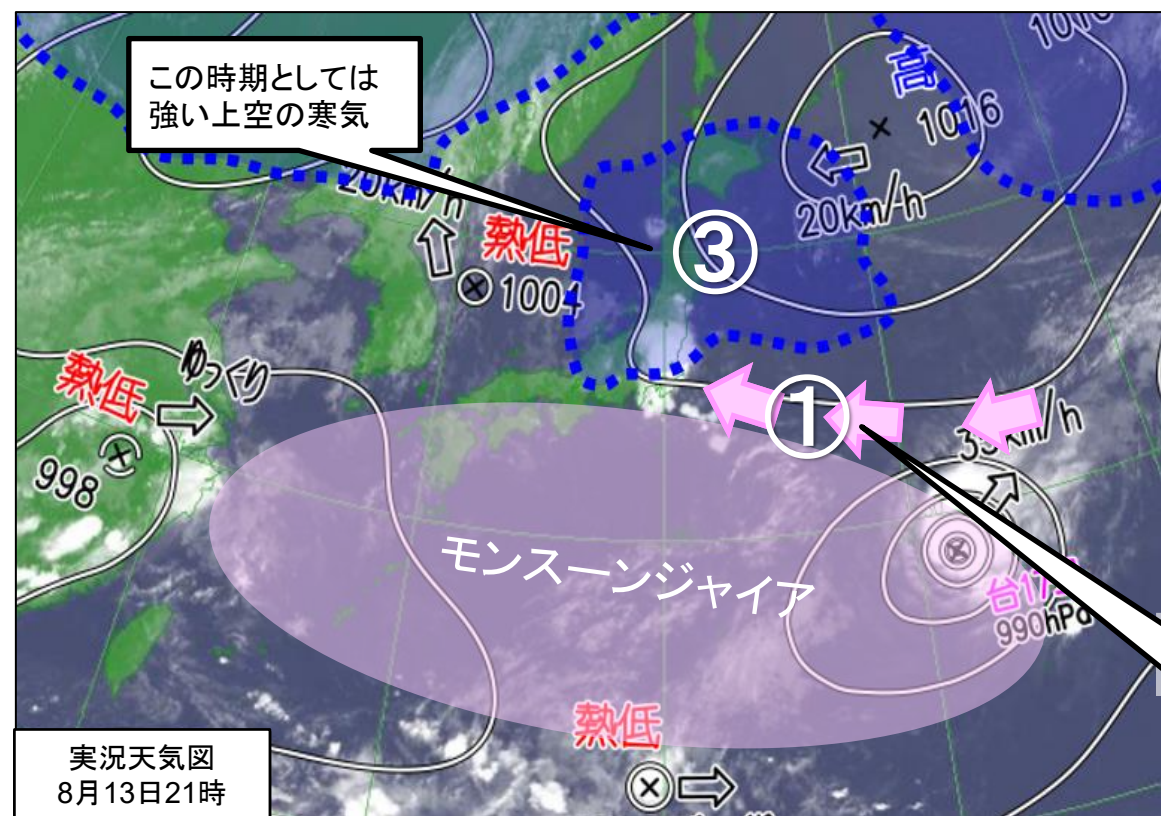
700hPaの湿度と風ベクトル コンターは高度



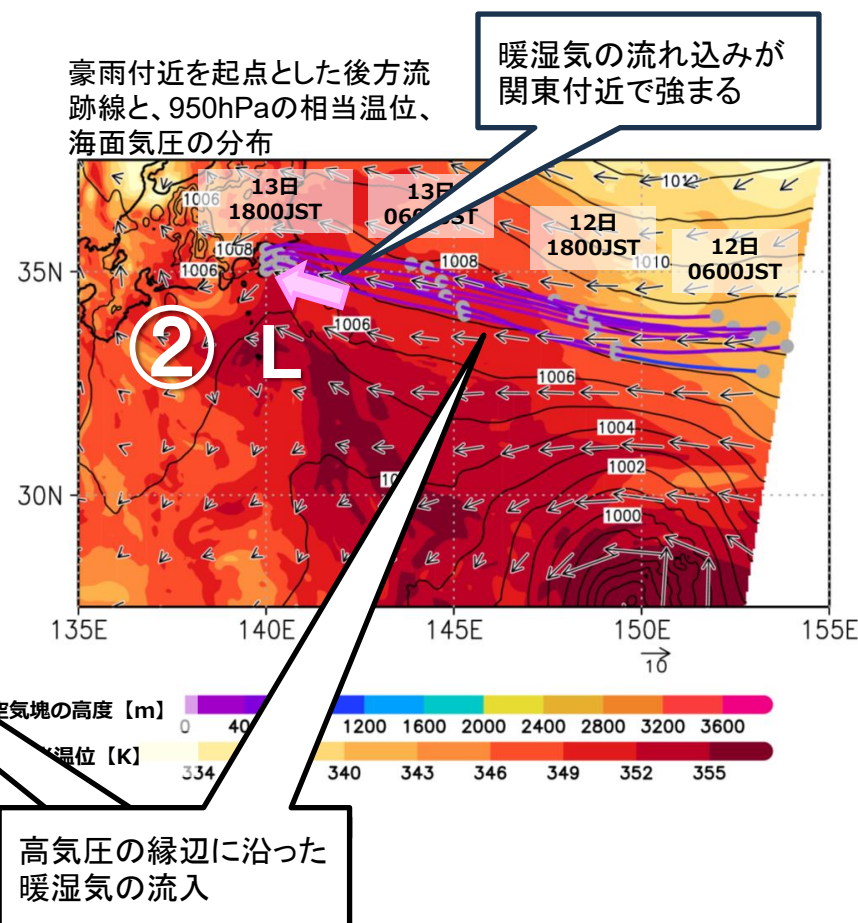
- 上層には強い寒気を伴った寒冷渦があって、関東地方はその影響下
- 関東地方には中・下層に湿潤な気塊が流入

豪雨の要因となった環境場について

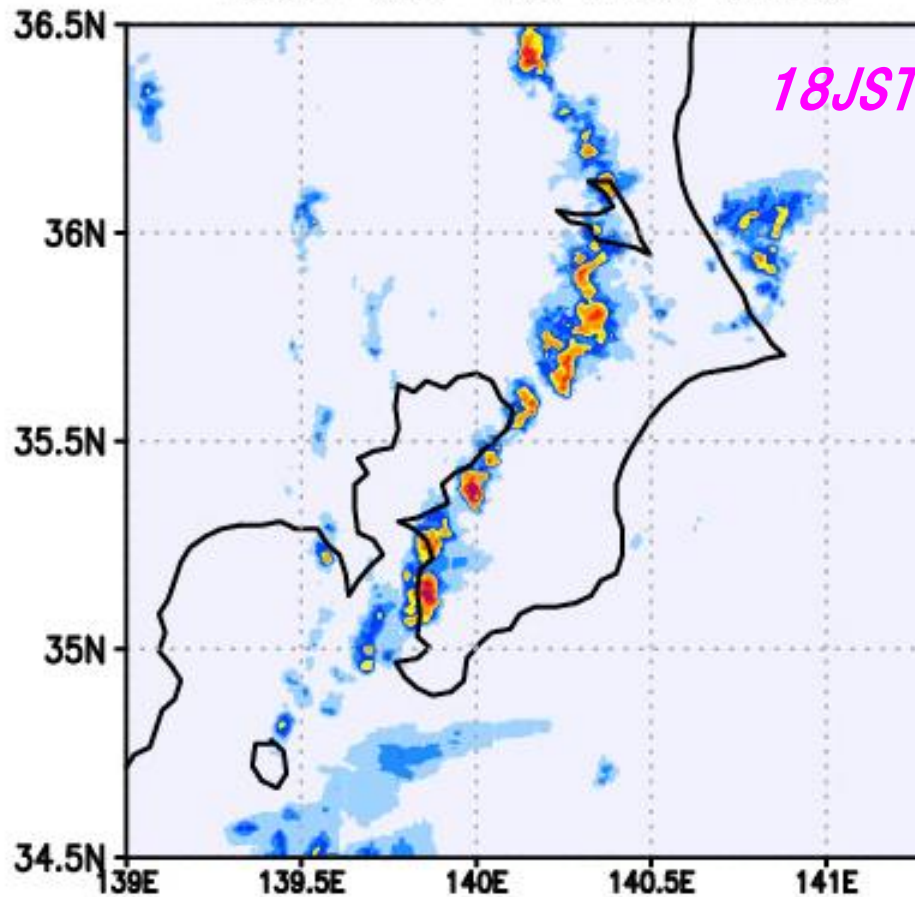
- ①千島の東に中心を持つ高気圧と日本の南海上のモンスーンジャイアとの間で気圧傾度が大きくなり、下層の暖湿気が東から関東地方へ流入した。
- ②房総半島の南には小低気圧があり、その循環に伴って①の暖湿気の流入が関東付近で強まっていた。
- ③上層には強い寒気を伴った寒冷渦があって、①の下層暖湿気の影響も加わって、関東地方では大気の状態が非常に不安定となっていた。



■■■■ 上空約5000mから6000mの気温-6度



1000 JST 13 AUG 2026

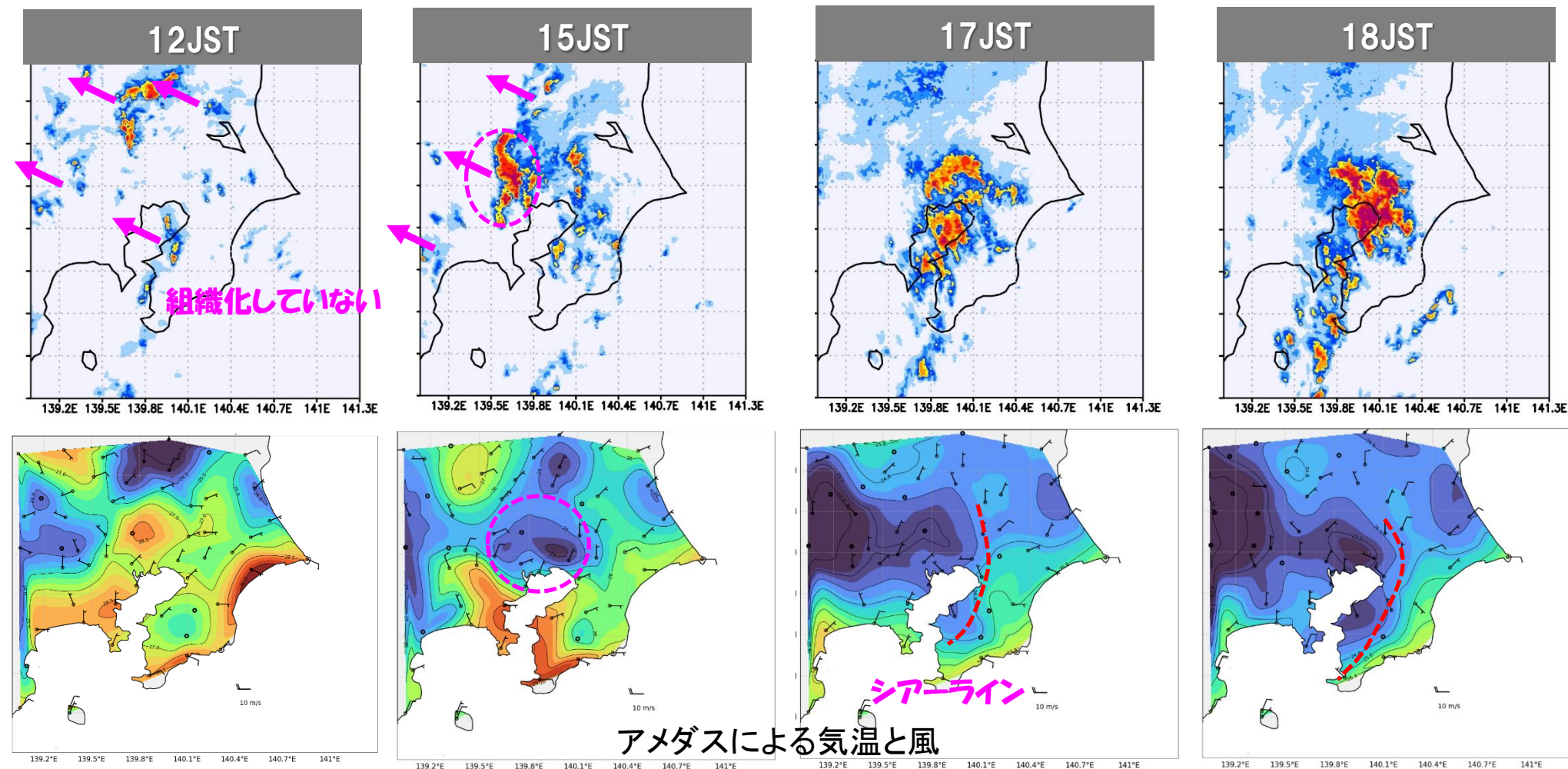


18JST頃から大雨の最盛期



17時頃になると、それまで関東平野内陸部まで西北西進していた積乱雲が東京湾付近で堰き止められるようになり、その付近では新たな積乱雲も次々に発生・発達して、メソ対流システム（線状降水帯）が発生

千葉豪雨をもたらしたメソ対流システムの発生・発達過程



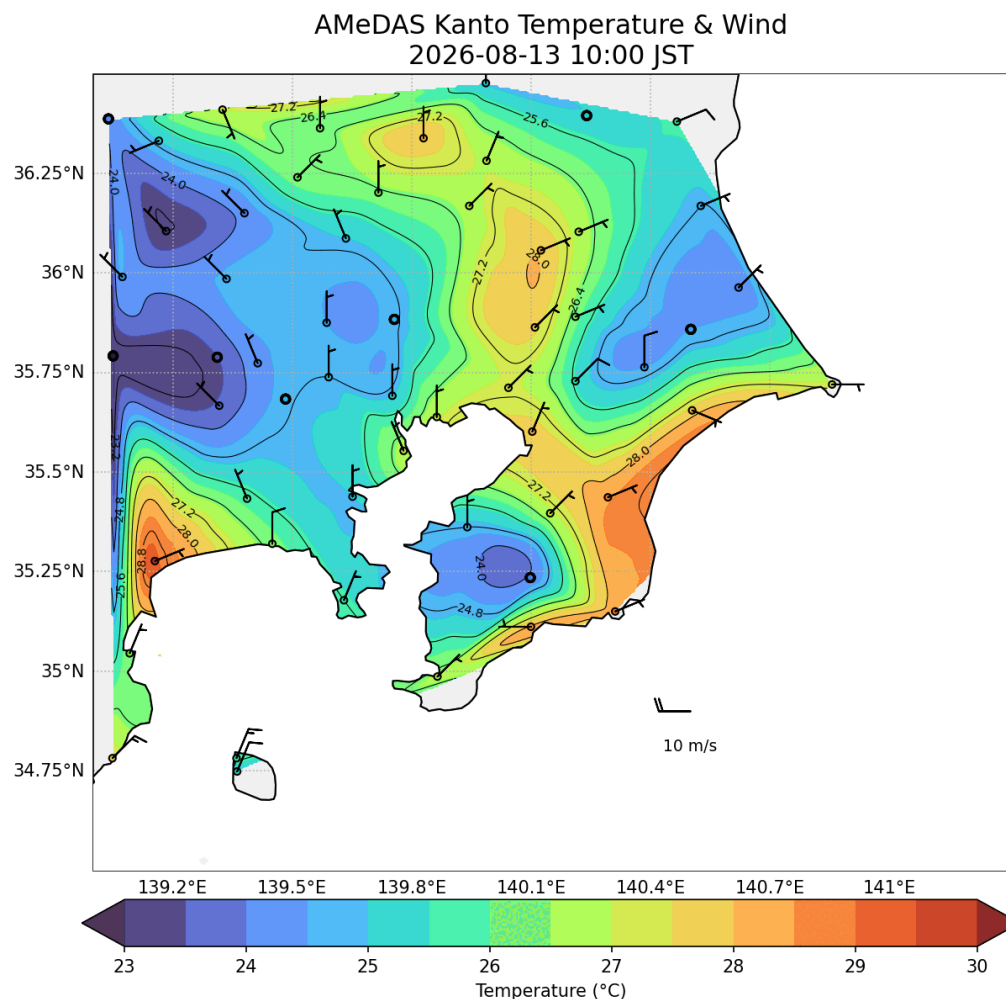
関東全域で積乱雲が散在し
西北西進

関東内陸側で、ややまとまった
積乱雲群が通過し、それに伴
い冷氣域を形成

北よりの風を伴った冷氣域は徐々
に強まり、その東端において東風
との間のシアラインが明瞭化し、
そこで線状の対流システムが発生

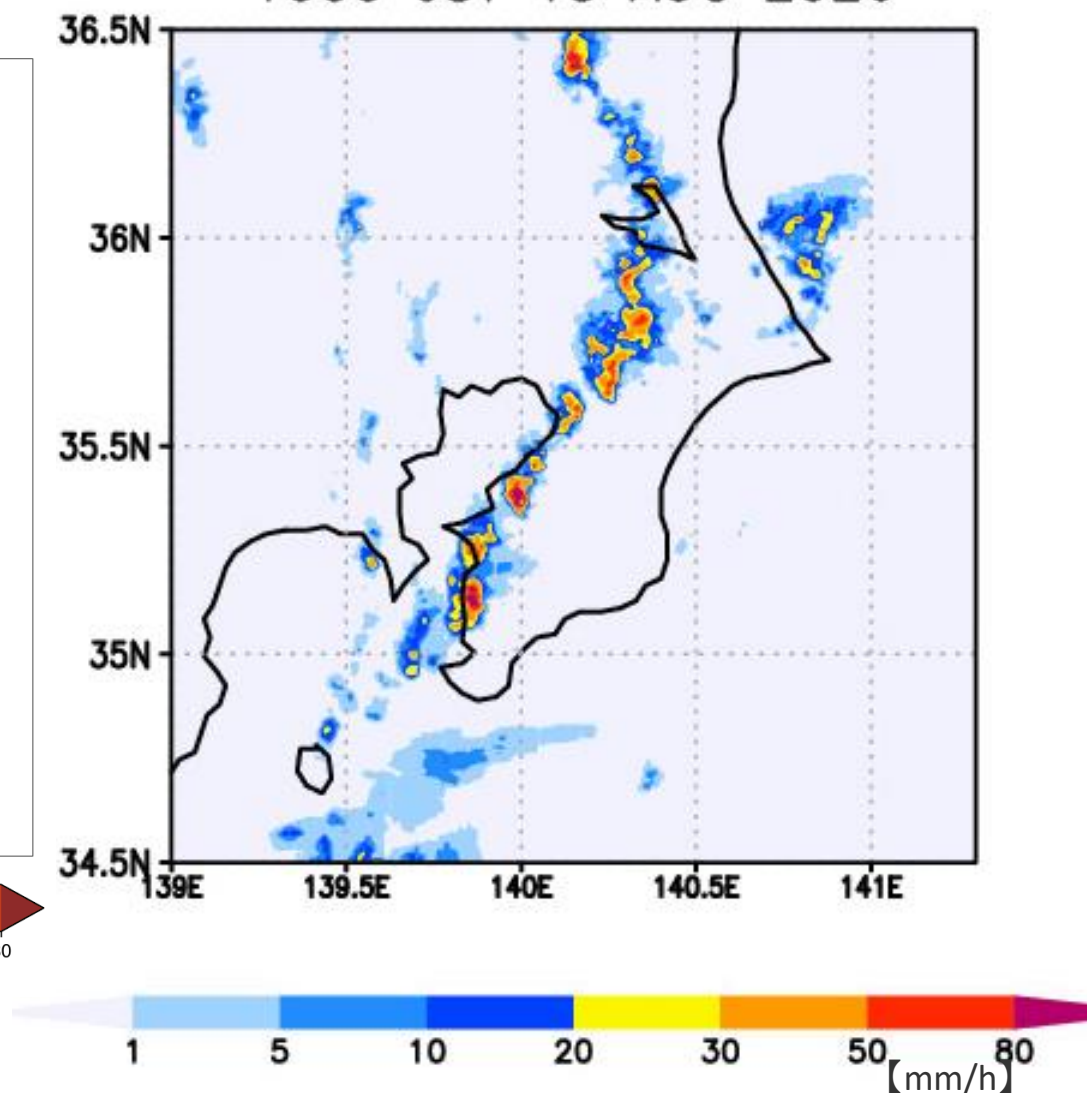
対流システム自身で冷氣を強め
ることで、冷氣層がゆっくり南東
に広がり、それとともに強雨域も
ゆっくり南東に移動

アメダスによる気温と風の分布

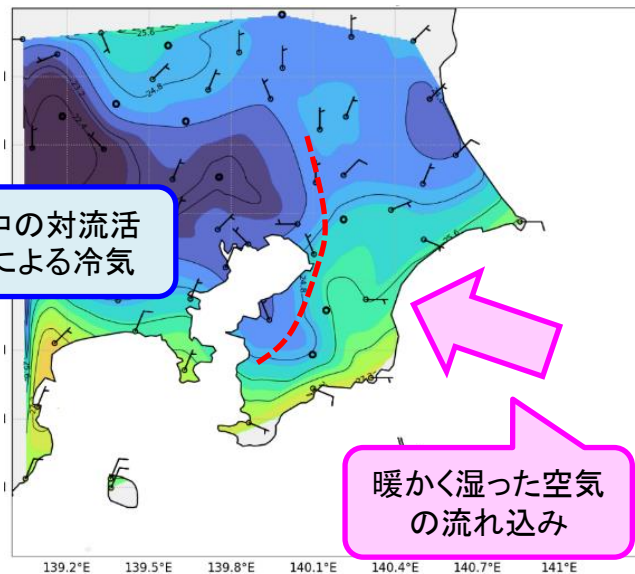


レーダー

1000 JST 13 AUG 2026

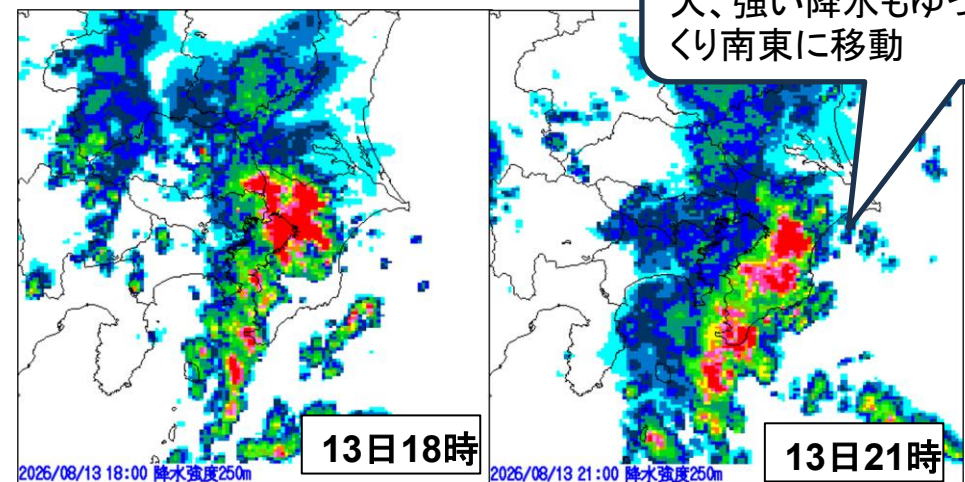
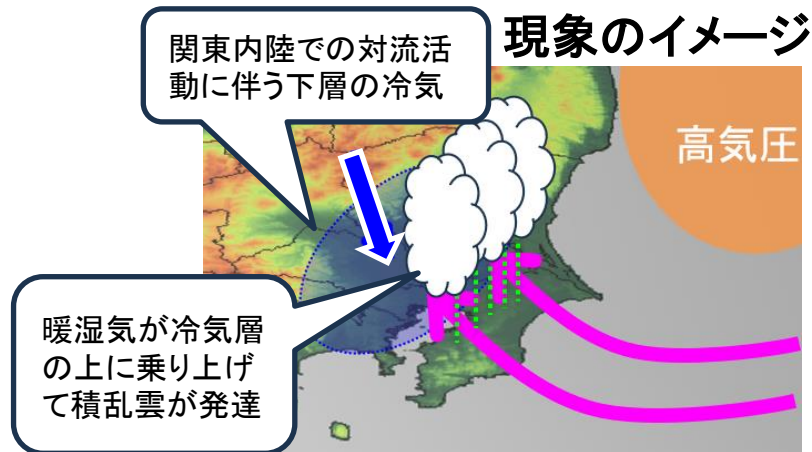


千葉豪雨をもたらしたメソ対流システムの発生・発達過程



8月13日17時の気温と風

- 関東地方の内陸部では、日中の対流活動に伴う降水によって局所的に気温が低下
- 15時頃から活発な対流に伴って次第に冷気の範囲が広がりはじめ、17時ごろには千葉県付近で暖湿気との間で、風向の変化を伴った局地的な前線(シアーライン)が明瞭化
- 東南東から流れ込んだ暖湿気が千葉県付近で冷氣層に乗り上げ、不安定な大気場の中で積乱雲が発達し、メソ対流システム(線状降水帯)が発生(暖湿気の流入に対して直交方向に組織化)
- 冷氣層は対流システム自身によって強められながらゆっくり南東へ広がり、それとともに強雨域もゆっくりと南東へ移動



関東地方における過去の顕著事例との比較

	令和8年8月 千葉豪雨	平成27年9月 関東・東北豪雨	令和5年9月 (房総半島を中心とした大雨)
大雨期間	2026年8月13日 16時～24時	2015年9月9日 17時～10日05時	2023年9月8日04 時～14時
持続時間	8時間	12時間	10時間
最大3時間降水量	280 mm	162 mm	215 mm
500m高度水蒸気フラックス量	363 g/m ² s	402 g/m ² s	714 g/m ² s
500m高度相当温位	355 K	358 K	364 K
300hPa気温	-31.1 °C	-28.7 °C	-28.8 °C
CAPE	2824 J/kg	2226 J/kg	2887 J/kg

※ 関東地方を囲む領域で計算。300hPa気温は期間内の領域平均の最低値、それ以外の要素は期間内の領域最大値を示す

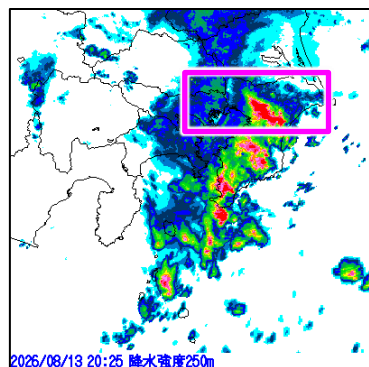
千葉豪雨では下層の暖湿気の流入は突出して強くない一方、上層の寒気が強く大気的不安定度が非常に大きいため、発達した積乱雲が生じやすい環境場であった。また、3時間雨量などの短時間雨量が多いことも特徴。

豪雨をもたらしたメソ対流システムの構造の比較

気象研究所設置のフェーズドレイダーによる解析

【令和8年8月千葉豪雨】

20 dbZエコー頂：
高度15km超え



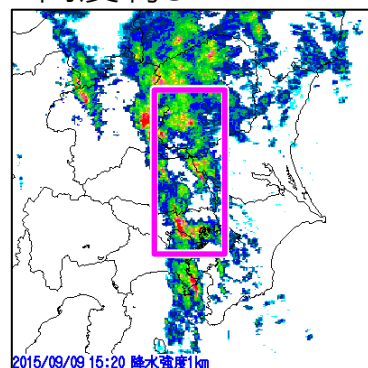
※南から北を眺めた図 (積乱雲は右から左に進行、白色点線の枠はノイズ領域)



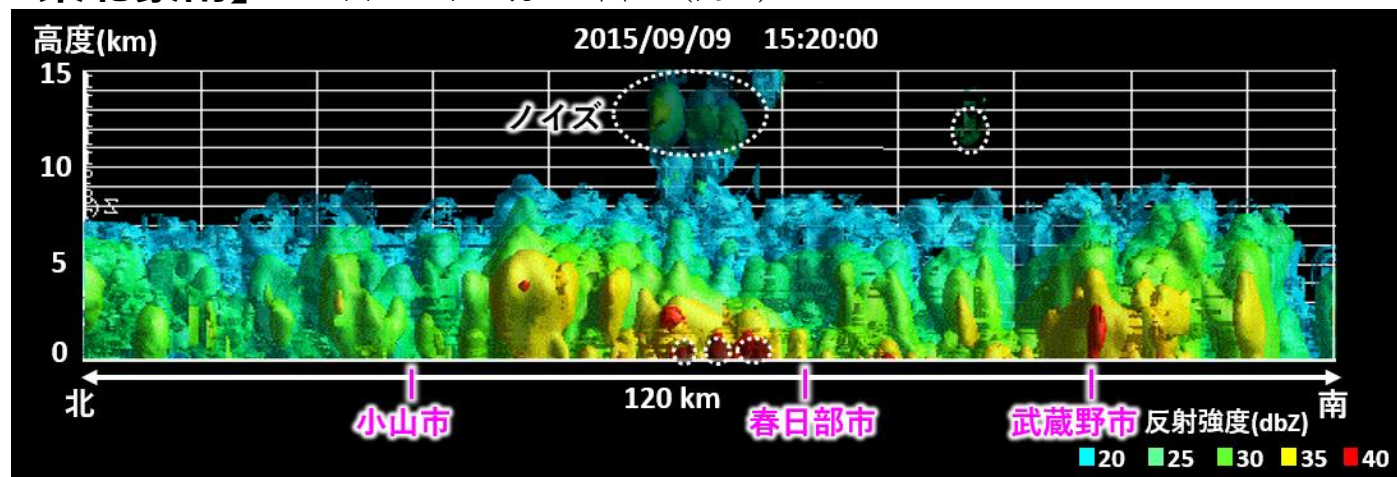
出典: 国土地理院の基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用

【平成27年9月関東・東北豪雨】

20 dbZエコー頂：
高度約8km



※西から東を眺めた図 (同上)



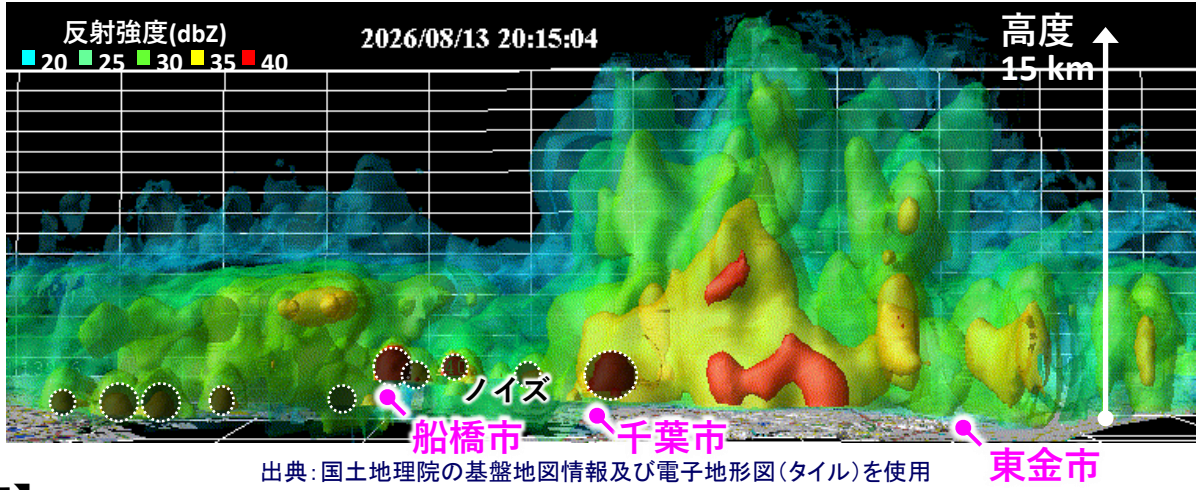
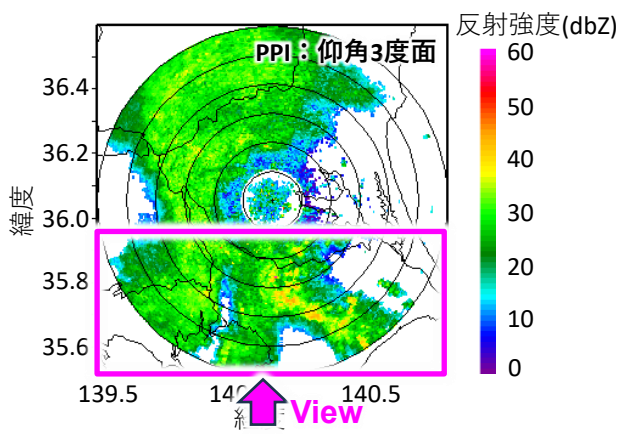
関東・東北豪雨に比べて千葉豪雨は、積乱雲が局所的により高い高度まで発達し、より多くの降水粒子を含んでいた

豪雨をもたらしたメソ対流システムの構造の比較

気象研究所設置のフェーズドレイレーダーによる解析

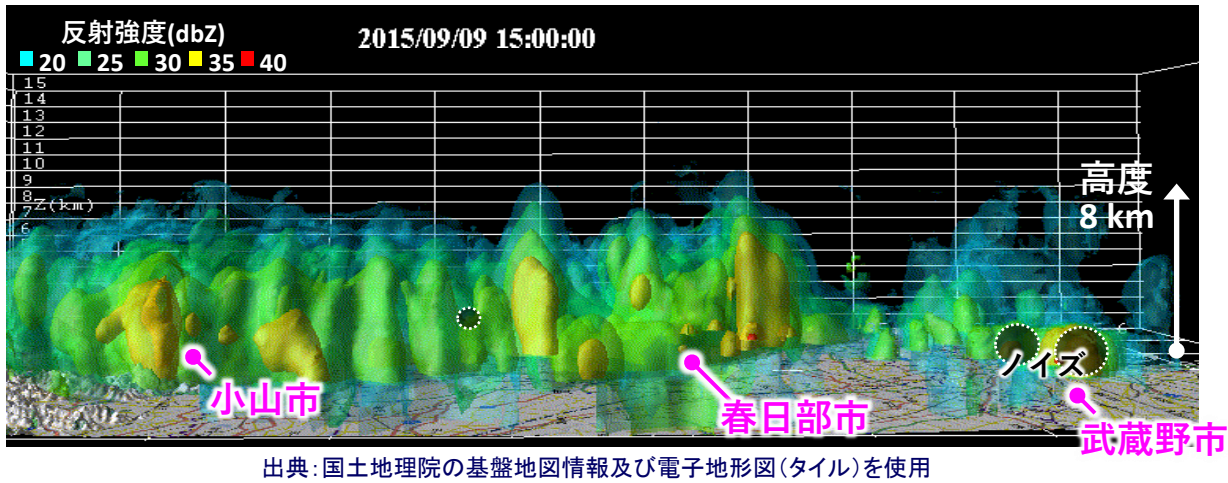
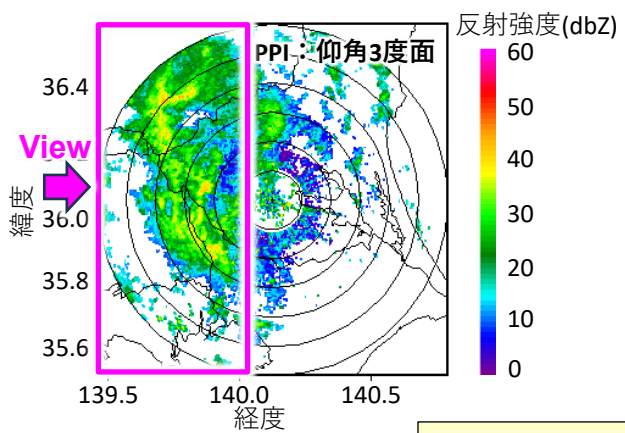
【令和8年8月千葉豪雨】 ※南から北を眺めた図 (積乱雲は右から左に進行、白色点線の枠はノイズ領域)

20 dbZエコー頂高度：15km超え



【平成27年9月関東・東北豪雨】 ※西から東を眺めた図 (同上)

20 dbZエコー頂高度：約8km



関東・東北豪雨に比べて千葉豪雨は、積乱雲が局所的により高い高度まで発達し、より多くの降水粒子を含んでいた

現業数値予報モデルの予測(1)

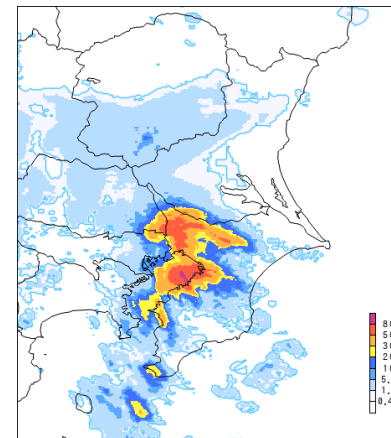
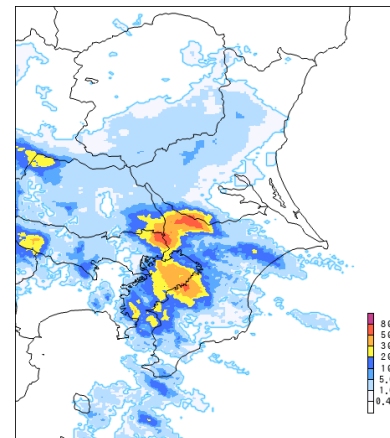
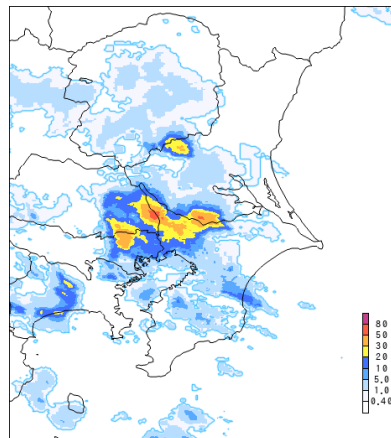
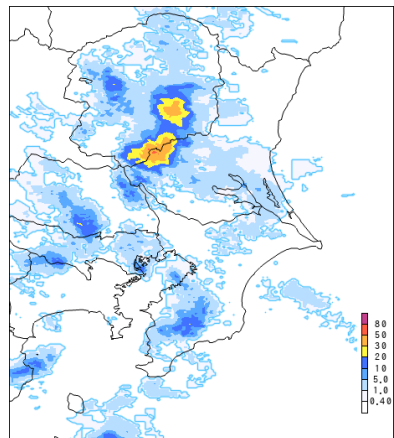
13日12時

15時

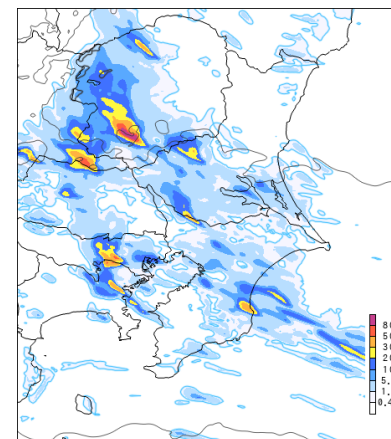
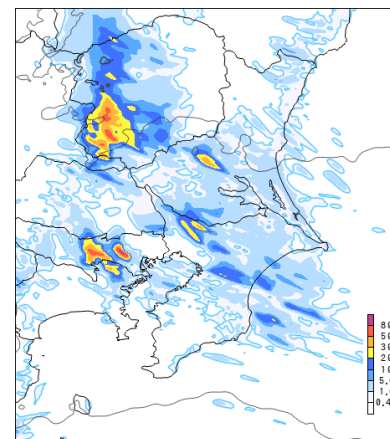
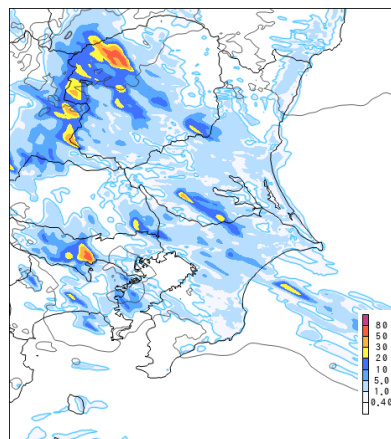
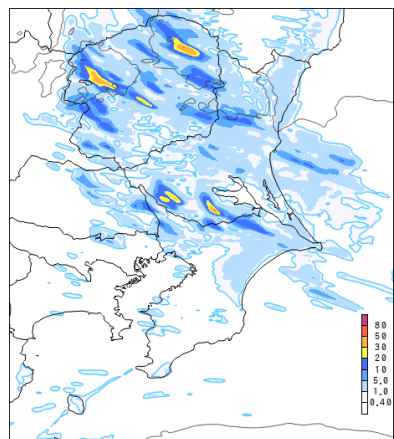
17時

18時

解析雨量



降水予測

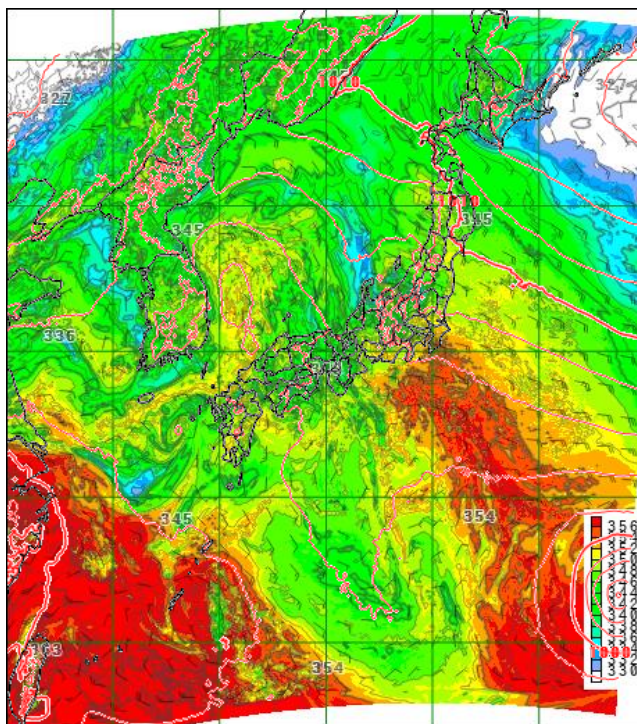


(上)解析雨量 (下)局地モデルの降水予測(初期時刻: 13日06時)

- 現業数値予報モデルは、関東内陸での大雨の持続を予測したが、千葉県での大雨は予測できなかった。

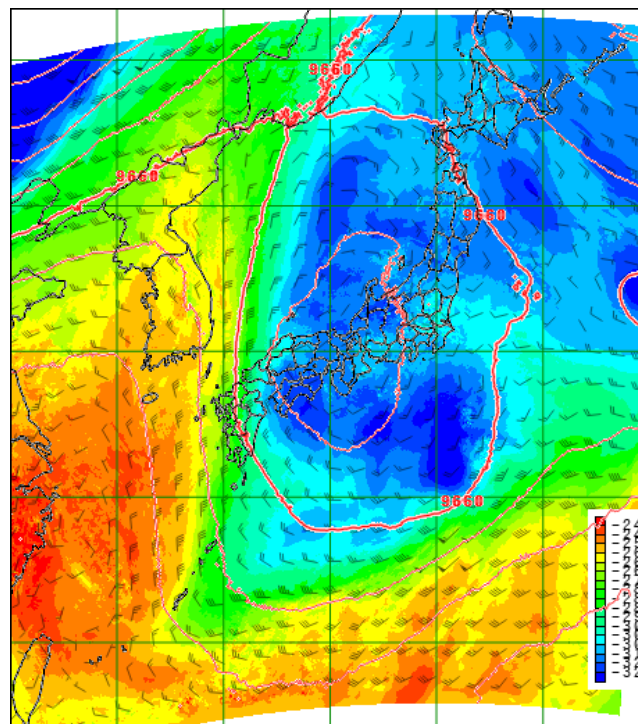
現業数値予報モデルの予測(2)

950hPa相当温位と風
コンターは海面気圧



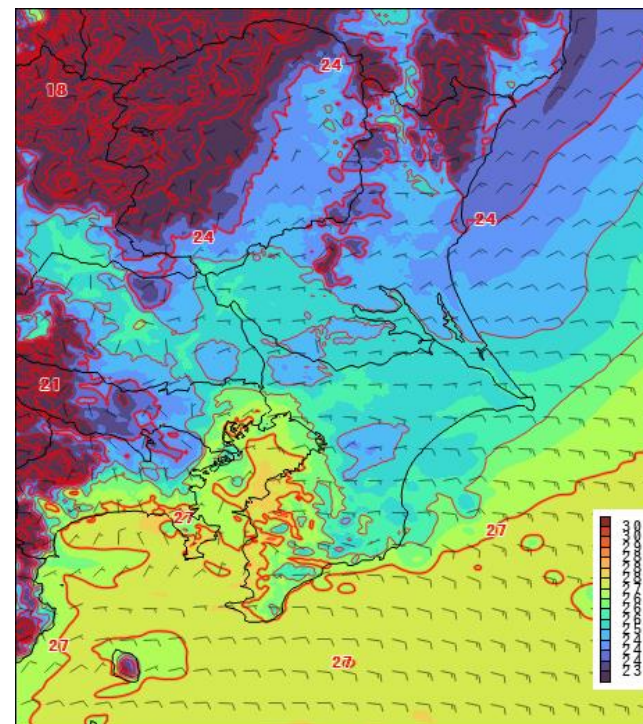
330 334 338 344 348 352 356 K

300hPaの気温と風ベクトル
コンターは高度



-32.0 -30.0 -28.0 -26.0 -24.0 °C

地上気温と風



23 24 25 26 27 28 29 30
Temperature (°C)

13日17時の局地モデルの予測(初期時刻13日06時)

- 関東地方への暖湿気の流入や上層の強い寒気といった大雨の発生環境場は予測できていた。
- 一方で、実況のような東京から千葉にかけての下層の冷氣域及び関連するシアーラインは形成されていなかった。

- 13日夕方から14日未明にかけて、千葉県で記録的な大雨となり、特に千葉では24時間降水量367mm、1時間降水量115mmを観測するなど、観測史上1位の値を更新した。
- 豪雨の発生環境場の特徴として、房総半島付近では東からの下層の暖湿気の流入が強まるとともに、上層では寒冷渦に伴う寒気が強く、大気の状態が非常に不安定となっていた。
- 関東内陸では日中の対流活動に伴う降水によって冷氣層が形成・拡大し、その東端では、東から流入する暖湿気との間で徐々にシアーラインを形成していった。このシアーライン上で豪雨をもたらしたメソ対流システム（線状降水帯）が形成されていた。メソ対流システムは、流入する暖湿気が冷氣層に乗り上げたことで、積乱雲が次々に発生し、すぐに急発達する構造となっていた。
- 過去の顕著事例と比較すると、本事例では上層の寒気が強く大気的不安定度が非常に大きくなっていた。レーダーによる解析からも、積乱雲の上端が15kmを超えるなど、より発達していたことが示された。
- 現業数値予報モデルは、関東内陸での大雨の持続を予測したが、千葉県での大雨は予測できなかった。関東地方への暖湿気の流入や上層の強い寒気といった大雨の発生環境場は予測できていた。一方で、実況のような東京から千葉にかけての下層の冷氣域及び関連するシアーラインは形成されていなかった。線状降水帯の発生位置の予測精度向上が引き続き重要課題であり、数値予報モデル等の改善に取り組む。